論　文

大学1年次共通英語教育「英語講読ＩＡ、ＩＢ」改革のためのアクション・リサーチ

飯　田　　毅
同志社女子大学
学芸学部・国際教養学科
教授

Action research on a first-year university English reading class

Tsuyoshi Iida
Department of International Studies, Faculty of Liberal Arts,
Doshisha Women's College of Liberal Arts,
Professor

Abstract

The present study aimed at improving first-year university students' reading class by means of action research. Students were required to read two passages at home using the on-line material named Super English（AE3). They were also asked to check important words in the passages and write what they had in mind in about 100 words outside the classroom. In the classroom students were mainly engaged in speaking activities based on the passages that they had read. Students in pairs mainly asked and answered questions about the passages in the classroom, reading and commenting on their writings. Their evaluation of this class was very high compared with other classes and studied longer than students in other reading classes. However, their vocabulary, grammar, and reading proficiency were not improved during two semesters, which leads to another action research for improvement of this class.

Key words：共通英語教育、reading、ICT、反転授業、アクション・リサーチ

１はじめに

本研究は2017-2019年度研究プロジェクト「本学の教育理念及びVision 150を活かした共通英語教育開発のための基礎研究」（English 2020）の中の授業研究である。本研究プロジェクトは、本学の共通英語教育の改革を目的に学部・学科を異にする７人の研究者が立ち上げた。１年目の主な取組については、飯田他（2018）にまとめてある。その取組の中で、報告できなかったものを本論にまとめた。本研究は共通英語教育の「英語講読ＩＡ、ＩＢ」の授業改革を目指して授業実践を通して研究したものである。

本授業を研究対象とした目的は、大きく分けて二つある。一つは、この論文を通して、最終的に本学における共通英語教育の一つのモデルとして提案したい、という目的である。一教員が一大学の授業モデルを作り上げるということは容易なことではない。しかし、誰かが始めないとそれは実現できない。もちろん、大学としてそのような授業モデルなど必要ない、という意見もあるだろう。しかし、大学として質の高い授業を学生に提供するためには、個人的な取組では限界があり、大学の専任教員と嘱託教員が共に協

力しあって作り上げることが重要である。とりわけ大学は初等教育・中等教育と異なり、外国語教育において専任教員の割合が圧倒的に少ない。経営的な理由から多くの場合、嘱託教員に依存しているのが現実である。そのような現状に鑑み、本研究では、外国語教育、とりわけ英語教育において専任教員と嘱託教員が共に本学の共通英語教育を語り合う場を設けるために、この論文を書くことにした。願わくば、この研究を他の教員、とりわけ、本学の共通英語を担当をされている専任教員及び嘱託教員に一つの取組として読んでもらい、大いに批判してもらいたい。その議論を通して、それぞれの教員の実践に何らかの形で役に立てればと考える。また、できれば専任教員及び嘱託教員からも授業の提案をしていただきたい、というのが本来の趣旨である。別の見方をすれば、この狙いは出すぎたことかもしれない、しかし、これが研究プロジェクトの狙いであると同時に大学における専任教員の義務である。中等教育の経験を持つ筆者は、本学に勤務してから中等教育と高等教育の接続及びそれぞれの英語教育の在り方について考えてきた。その結果、大学における専任教員は嘱託教員と共に学生の教育に携っているのであり、とりわけ専任教員は嘱託教員より重い責任がある、ということを改めて感じた。その責任の一つに嘱託教員との共同作業があり、その共同作業をこの論文を通して実現したい。

もう一つの目的は、自分自身の指導力向上のためである。本研究のタイトルにもあるように、この研究はアクション・リサーチという手法を使っている。この方法の一つの大きな狙いは、教育者自身の指導力向上にある。現在、日本の大学では教員の指導力向上を目指してFaculty Development（FD）やアクティブ・ラーニング等の研修が盛んに実施されている。それらの研究や研修はとても有効であることは間違いない。しかし、個々の教員の指導力を向上させるためには、教員自身が自らの授業をできるだけ客観的に捉え、その成果を報告すると同時にその結果を振り返り、新たな授業を組み立て、実践し続けることが重要である。この一連の授業に対する連続した継続的な営みが指導力向上に寄与するのである（飯田、1997）。

本論文では、研究の背景として本学の共通英語の実態とEnglish 2020の目指すものを述べた上で、本研究の研究課題を提示し、実践を通して振り返り、今後の課題を提示する。

2 研究の背景

2.1 本学の共通英語教育とEnglish 2020

本学の共通英語教育は、今まで英語英文学科が中心となって実施してきている。現在は共通英語教育部会が立ち上がり、英語英文学科と国際教養学科の学科主任及び教務主任、共通英語担当者、現代社会学部のCase Program担当者及び教務課で共に進めている。その中でも英語英文学科は重要な役割を担っている。本学は、かつては英語英文学科所属の専任教員が多かったこともあり、共通英語教育の運営も英語英文学科が中心となり、担当してきた。しかし、2018年度現在6学部11学科を有する大学になったこともあり、英語英文学科だけでは、共通英語教育を担当できなくなってきている。現在共通英語科目を教えている本学の専任教員は筆者を含めて数名であり、主に嘱託教員が担当している。このことは、必ずしも本学だけでなく、多くの大学でも同様な実態である。一方、近年英語教育の改革が叫ばれていることから、多くの大学は英語教育センターを立ち上げたり、外部試験を導入したり、場合によっては、英語教育そのものを外部委託する大学も増えてきている。そのような状況にあって、本学は残念ながら、発展途上の英語教育であると言わざるを得ない。共通英語教育部会が設置され、2019年度からの共通英語教育のシラバスの改定されたことは確かに改革の一歩ではある。しかし、現在の体制では、専任教員が学部・学科の教育に専念せざるを得ず、本学全体の共通英語教育に専念できない状況である。加えて、本来の大学の英語教育を考えると、取り組むべき課題が多い。特に、定期的に学生の英語力、学習実態、英語学習に対する情意面を把握しながら、より良い授業を目指し授業の立案、計画、実行、評価を行い、個別指導を含めたよりきめ細かい指導を行う責任のある部署が必要である。また、後述する学習指導要領の改訂及び民間試験を「大学入試共通テスト」として利用することによって今後多様な能力を持った学生が入学すると考えられる。そのような学生に対して、質の高い授業を提供し、学生の英語を含めた外国語に興味を持たせ、外国語能力を伸ばし、延いては母語能力を高めることにつながるような教育を実施することが大切である。以上のような背景の中で、本学英語教育改革のための基礎的研究である本プロジェクトが生まれた。本学の英語教育に関心を抱いている教員7名が結集して、現在英語教育を改革すべく基礎研究に従事している。

ここで、English 2020の取り組みの分野を改めて紹介し、本研究との関係について述べる。プロジェクト全体の目的

は「英語の同志社」にふさわしい新しい共通英語教育を実施するための基礎研究を行うことにある。そのために、本学学生の英語力や情意面に関する調査を実施する。次に、本学の教育理念に則った英語教材を開発する。最後にICTを利用した授業を展開し、Vision 150に記されている「学修するコミュニティ」を実現することにある。具体的には、以下の７つの基礎研究を実施する。

（１）本学の教育理念であるリベラル・アーツ、キリスト教主義、国際主義に関する質の高い本学独自の英語教材を開発し、全学で使えるようにする。
（２）本学の学生を対象として、学習方略を含めた英語に対する態度や考え方、学習履歴（英語資格、留学の有無等）、英語学習の情意面（学習動機・不安等）に関する基礎的な全学共通英語教育アンケート調査を実施し、本学の学生の特徴を知り、実態を明らかにする。
（３）共通英語教育と学部の専門教育の橋渡しを考えるために、薬学部及び看護学部の英語力について調査を実施し、学部の科目である「薬学英語」や「国際保健」等の専門科目とのよりよい連携方法を考える。また、教育方法の効果を確かめるために外部英語試験を使ってどのように学生の英語力（speaking、listening、reading、writing）が変化するのかを調査する。
（４）現在看護学部で行われているInformation Communication Technology（ICT）を活用した英語教育を発展させ、他学部でも実施できるようにする。
（５）（３）の調査結果等を踏まえ他大学の視察を通して、共通英語科目内容を再考する。
（６）他学部の優秀な学生をSA（student assistant）や英語学習コンシェルジュとして採用する。これはVision 150にも記されている「学修するコミュニティ」の共通英語教育における実践でもある。学部・学科を超えて、日常的に英語を学び合う学習コミュニティを創造する。
（７）「学修するコミュニティ」を活かし、学生たち自身の手で簡単な英語教材を制作するプロジェクトを立ち上げ、作品を作り上げる。

本研究は、上記の７つの目標の中の（４）に当たる授業研究である。本研究の対象となる科目名は「英語講読ＩＡ、ＩＢ」である。この科目は､2019年度から「Comprehensive English Ⅰ、Ⅱ」に名称が変更され、2020年度から２年次科目として、「英語講読ⅡＡ、ⅡＢ」が「Comprehensive English Ⅲ、Ⅳ」に変わる。新科目は講読に当たる英語のreadingだけでなく、listening, speaking, writingをも取り入れた総合的な授業を展開しようとするものである。このシラバスの変更は、2017年に発表された「中学校学習指導要領（外国語編）」及び2018年度に発表された「高等学校学習指導要領（外国語編）」の中で、英語の産出的技能であるspeakingやwritingを重視した流れに対応したものである。このような４技能重視の英語教育は筆者自身賛成である。４技能を重視することで、外国語としての英語の中で最も大切な技能であるreadingの力が伸びると考えるからである。しかしながら、2020年度に実施される「大学入学共通テスト」である英語民間試験の実施については、民間試験を大学入試試験として一律に使用すること自体に問題があり、その他多くの問題を抱えている（例、阿部、2017；南風原、2018）。

筆者は、2015年度から「英語講読ＩＡ、ＩＢ」を担当している。この年に本学に看護学部が設置され、自らこの授業を担当することを希望した。その理由は、新しい学部が発足するに当って、筆者自身協力したいという気持ちがあったからである。また、本学の一英語教師として共通英語教育改革に貢献したいという思いがあったからである。

この授業を担当するに当たってICTの利用、Flipped Learning（反転授業）の活用、専門教育との内容的なつながり、という３つの方針を立てた。本学の英語を専門とする以外の１年次学生は、高等学校とは大きく異なり、英語の授業が「英語講読ＩＡ、ＩＢ」と「英語コミュニケーションＩＡ、ＩＢ」の週２コマになってしまう。英語の入学試験を経て来た学生にとって、大学の英語の科目と学習時間は高校時代に比べ極端に減る。そのような中で、ICTを利用することで学生の自律的・自主的な英語学習を促すことができるのではないだろうか。次に、授業時間が限られていることから、教室外で英語を読んできたことを前提に、教室ではコミュニケーション活動を展開するという反転授業を実施することにした。反転授業は、一般に「説明型の講義など基本的な学習を宿題として授業前に行い、個別指導やプロジェクト学習など知識の定着や応用力の育成に必要な学習を授業中に行う教育方法」（山内、大浦、2014、p. ３）、と説明される。従来の英語readingの学習は、教室外で予習としてpassageを読み、単語や表現の意味を調べ、問題を解いて来た上で、教室内では重要な語彙や表

現を学び、問題等の答え合わせをするというのが普通であろう。本授業では、教室外でreadingの基本をオンライン上で学んだ上で、教室内では語彙・文法を復習しながらspeakingや学生が書いた英文を読み、話し合う活動を中心に行うという反転授業である。反転授業によって、教室外学習と教室内学習をより密接に関係づけ、readingの力を伸ばすと同時に他の技能を伸ばしたい。最後は、英語学習と専門教育の内容的連携を図るという方針である。看護英語という授業を展開するのではなく、全体として本学の建学の理念の一つであるリベラル・アーツに関する題材を学びながら、看護に関係する題材を一部取り入れる。英語で学んだ事柄を専門分野の中で、関連づけるという連携である。そのような緩やかな連携が共通英語教育と看護の専門科目を結びつける橋渡しの役割を果たす。この最後の方針は、English 2020の（３）の基礎研究に通じるものである。

2.2 アクション・リサーチ

本研究ではアクション・リサーチという研究方法を利用する。英語教育におけるアクション・リサーチに関しては、様々な研究者が利用し、その研究方法を論じている（例、Cohen and Manion, 1990；Fukuda, 1996； 飯田、1997；Nunan, 1989；リチャーズ＆ロックハート、2000；佐野、2000）。その中で、佐野（2000）はアクション・リサーチの信頼性と妥当性について論じている。彼は、（１）内的信頼性（internal reliability）、（２）外的信頼性（external reliability）、（３）内的妥当性（internal validity）、（４）外的妥当性（external validity）の４つを取り上げ、アクション・リサーチでは、外的妥当性が欠けるとしている。すなわち、応用言語学の科学論文で重要な点は、調査で導き出された結論は、被験者が変わっても該当する事実かどうかが必ずしも言えない、という点である。言い換えれば、一般論として妥当かどうかが必ずしも言えないという点である。それに対して佐野は以下のように述べている。

> 繰り返し説明してきたように、アクション・リサーチは自分の生徒が直面している問題の解決が第一であって、外的妥当性はさしあたりの関心ごとではない。ということは、（４）のexternal validityを捨てることによって、状況に深く根ざした、多面的な要因を丸ごと探るリサーチを成立させようと計るのである。だから、external validityがないことをもって、アクション・リサーチを批判するのは誤りである。（p. 51）

本研究は、「英語講読ＩＡ、ＩＢ」という状況に深く根ざした多面的な要素を持つ研究である。本研究で得られた結論は必ずしも一般化することは困難かもしれない。しかしながら、他の専任教員及び嘱託教員の実践に何らかの形で応用できること、また、本授業計画をできるだけ詳細に述べ、繰り返し実践し、得られた結果をより客観的な方法で測定することで、上記の困難点を解消できるかもしれない。

佐野（2000）は、アクション・リサーチの方法をNunan（1989、p. 13）から引用しながら、問題の確定と対策（Plan）、対策の実施と調査（Act & Observe）、調査結果を分析し、再度問題点を考え（Reflect）、このサイクルを繰り返す手法を取っている。もう少し詳しく述べると、問題の確定（Problem of Identification）→予備調査（Preliminary Investigation）→仮説の設定（Hypothesis）→計画の実践（Plan Intervention）→結果の検証（Outcome）→報告（Reporting）の６段階で説明している。リチャーズ＆ロックハート（2000、p. 15）は、計画立案（Planning）→アクション（Action）→観察（Observation）→省察（Reflection）という過程を繰り返すことである、と説明している。このような手順の違いに対して佐野は以下のように述べている。

> アクション・リサーチの６段階を説明したが、これも一つのステップに過ぎない。問題確定、予備調査、仮説設定、実践、検証があれば、すなわち、Reflective Teachingのサイクルが守られている限り、いろいろなまとめ方が可能である。（2000、p. 60）

上記のように、アクション・リサーチの特徴はReflective Teachingのサイクルが守られているということにある。本研究においても上記の手法を参考にしながら進めていく。

2.3 研究対象授業

本授業は2014年度から始まり、現在４年目である。基本的授業デザインは４年前と変わらない。本実践の２年目の取組を「教室外の課題と授業を結びつける英語講読の授業」（2016）という名称で私情協にて口頭発表している。本研究は口頭発表を通して得られた省察を基に、授業が再編成され、実践されている。本授業は、共通英語「英語講読ＩＡ、ＩＢ」の共通シラバスに基づいて作成されている。本研究では、2017年度の授業を研究対象とする。４年間の実践を通して得られた成果を考慮しながら、本授業の目標、授業内容、評価について述べる。

表１　2017年度授業目標

1 授業目標

（1）学生自身が自律的（autonomous）、計画的（systematic）な学習を通して英語の読解力（reading comprehension）、語彙（vocabulary）、文法（grammar）を総合的に高めると同時に主体的（independently）に学習する態度を身につける。

（2）学生は１週間に決められた曜日までの課題を行い、授業中は読解力を高めながら読んだ内容について日本語や英語を使って話し合い（Questions and answers、Discussion）、宿題として出されたpassageに関して自分の考えなどを英語で書いてきたものを（Writing）読み合う活動を行う。

（3）600 words程度の英語のpassageを読んで、100 words程度の英文で自分の意見を述べることができる。

（4）TOEIC L&R IPに向けて、高得点が取れるように努力する。自分自身の英語力について標準英語試験を通して知り、それに向けて更に努力できるようにする。

表２　2017年度授業内容

2 授業内容

（1）予習：この科目では授業時間外で「Super 英語（AE ３）」の２種類のReading passageとTOEICの問題集を学習した上で授業に臨む。AE ３の課題は月曜日から次週の授業開始前までに取り組み、全てのTaskに取り組み、最後にConfirmation testで80-90%の正答率を得る。80%-90%以上取らないと課題終了にならない。また、毎回のWorksheetにReading passageに関する語彙、文法事項、表現等で学習した事柄を記録する。自己表現活動としてSpeakingやWritingの課題がある。50 wordsから100 wordsの英文を書く。TOEICの問題は毎回事前に指示される。

（2）AE3の課題はSelected trainingに出題される。

アクセス方法

（ｉ）AE3の課題は本学ホームページ（http://www.dwc.doshisha.ac.jp/current/）から「在学生の方へ」をクリックする。

（ii）「在学生の方へ」の下の方の「英語自主学習システムを使いたい」をクリックする。

（iii）「スーパー英語」（Windows/Macintosh）の「ログイン画面」をクリックする。

（iv）「Welcome to Academic ３」の画面が出てくるので、自分のログインIDとパスワードを入力する。

（ｖ）画面の左側にMenuがあり、課題はSelected Trainingに出題される。期限が過ぎると課題はなくなる。

（vi）教室では各自の課題で行なったことを中心に、より深い読み方について（Grammar、Structure、Vocabulary、Reading）学び、ペアやグループで予習してきたことについて英語で自分の考えを述べ（Speaking）、友人が書いてきたこと（Writing）についてコメントする。Productiveな活動を展開する。Discussion（Readingのテキストに関するQuestions & Answers）や本文やwritingついて学ぶ。１/３程度の時間をTOEICに使う。

表１は2017年度の授業目標である。（１）に書かれている重要な用語は、自律的、計画的、主体的である。Super英語というオンラインの教材を使って、学生が自律的、計画的、主体的に教室外で学習することが第一の狙いである。このオンライン教材は、課題として出される以外にたくさんの語彙、文法、listening、reading、各種テスト対策の教材が含まれている。担当者の狙いとしては、学生が一週間ごとに出される課題に計画的に取り組むと同時に、その他の教材を主体的、計画的に学習することを狙っている。また、主体的、計画的に取り組んだかどうかの評価は、mileageという評価項目を通して測定できる。mileageというのは、学生がSuper英語の教材にどの程度取り組んだかをマイルという数字で表現したものである。例えば、課題として出されたreadingの１講座終了すると20マイル、一

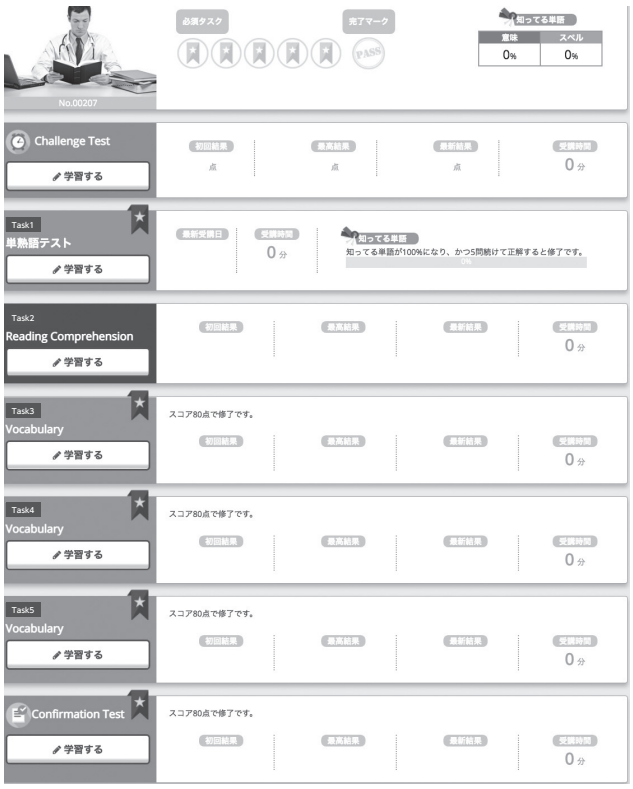

図１ AE3 Reading Passageの画面

つの語彙の学習に１マイルというようになっている。管理者はこのmileageを通して学生の取り組み状況を把握することになる。オンライン教材の長所は、このように学習者の履歴に関するデータを取り込めることができる点である。

（２）について、課題として出されたSuper英語の問題を学生はオンライン上で学習する（skimming、vocabulary、reading comprehension）ことに加えて、宿題として２つのpassageに関する重要な語彙の意味を調べ、worksheet（Appendix ２）に語彙とその意味を書いてくる。また、それぞれのpassageに対して自分の意見を50～100 words以上英語で書いて来ることになっている（Appendix ３）。書いてきた英文は、授業の中で時間を取り、ペアまたは４人のグループで読み合い、友人が書いてきた英文にコメントをすることになっている。授業終了後、筆者は学生のワークシートを回収し、全体を読み、添削して翌週返却することにしている。

（３）は、（２）のwritingの目標を指している。期末試験で出題される新しい英語の文章に関して100 wordsの英語で書くことが目標である。結果的に全員の学生がその目標を達成できている。

（４）は、12月に１年次生全員がTOEIC L&R IPの試験を受験することが義務であることを示している。共通英語シラバスの中で授業の１/３をTOEIC L&Rに関する問題演習等に時間を配分することになっている。

表２は、表１の授業目標を達成するための予習の方法とAE3の使い方、教室内の活動の具体例を示している。ここでAE3に関して簡単に紹介する。AE3は多くの大学で採用されているオンライン教材である。本学では、2007年の国際教養学科開設に合わせて導入され、現在AE3という名称が示すように、３回改定されている。2017年度からAE3に大幅にリニューアルされ、特に語彙部門が充実した。リニューアルによって文法部門も新しく編集され、多くの文法問題が追加され、中学の英文法から復習できるようになった。しかし、本授業の中に文法問題を効果的に取り入れることができないと判断したため、2017年度からはReadingにのみに焦点を当てることにした。また、TOEIC L&R IPの試験が近づいた時には、AE3のTOEIC-mini testの問題をアップロードして学生に取り組ませている。

図１は10月17日の授業のために課題として出された「先史以来現代までの医学史概観」というreading教材の最初の画面である。課題として出された教材をクリックするとこの画面が出てくる。学生は画面に示されたように上から順に学習し、最後はConfirmation Testを受験する。Challenge Testは読む時間を自分で設定し、その範囲の中で問題を解くscanning、skimming 問題である。ここでは速読力を養成する狙いがある。図１のTask １の「英単語テスト」は学習者のAE3の学習状況に応じて出題され、本文に関する重要な語句が学べるようになっている。Task ２（図１）のReading Comprehensionには英語の質問とその解答の選択肢が与えられた読解問題である。学生は問題終了後、自分で解答を確かめ、日本語訳を参照しながら、わからない部分を解説とともに理解できるようになっている。Task ３、Task ４、Task ５（図１）は本文の空所を埋める語彙挿入問題である。空所のある英文と挿入すべき語彙だけ与えられているので、本文と語彙を理解しないと問題が解けないようになっている。Task ６（図１）はConfirmation Testである。本文の空所部分に文を入れる挿入問題と読解問題になっており、Task ２のReading Comprehensionと同じ問題に新しい問題が加えられている。Task ６には解答と解説がなく、学習者は前もって決められた合格点を取らないとこの課題を終了したことにならない。つまり教師側の履歴に残らないのである。合格率は段階的に８割から９割の間に設定するようにした。

表３はこの授業の評価方法を示している。半期で3000マイルは今までの経験から学生にとって決して無理な目標ではない。また、できるだけ自主的に取り組めるように、

表３　評価方法

（１）Super英語のmileageを春学期に3000マイルを超えること。
（２）課題以外に取り組んだ場合はボーナスポイントがもらえ、成績に反映させる。
（３）中間・期末試験問題はSuper英語の課題、TOEICのテキスト、Writingの課題＋応用問題から出題（60分）。
（４）成績は、中間テスト（35％）、期末テスト（35％）、授業中の貢献（10％）、super英語のmileage（20％）

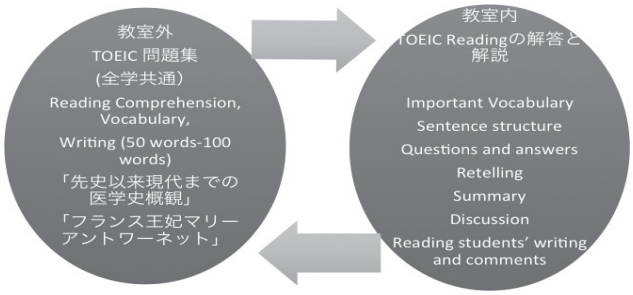

図２ 本授業における教室内と教室外活動の関係

ボーナスポイントという項目を設けている。中間・期末テストに関してもできるだけ詳しい情報（例、試験範囲における既習のreading passageと新出のreading passageの割合）を提示すると同時に、それぞれのテスト実施２週間前にテスト範囲に当たるpassageを再度アップロードし、学生が復習できるように配慮している。

本授業の教室外活動と教室内活動の関係について図２及びAppendix １、２、３を使ってまとめる。教室内では授業の１/３をTOEIC readingに類した問題を解き、12月の１年次生全員に受験が義務付けられたTOEIC L&R IPに備える。授業の２/３をAE3に当て、教室外で主にAE3の課題に取り組む。AE3の問題にはReading comprehensionに解答と解説がある。したがって、学生は自分で問題を解いた後に、答を確かめることができる。それぞれの解答には、丁寧な解説が含まれ、reading教材の日本語訳もある。課題の進捗状況は管理者である筆者が把握でき、学生の個別指導に活かすことができる。学期中の学生の学習結果をある程度把握できる所がオンライン教材の長所である。もちろん、学生の学習状況を全て正確に管理できるわけではない。学生が答を見て問題を解いたように装うことも可能である。問題を解くだけであれば、そのような行為も可能かもしれない。しかし、課題には読んだ後に、英語で自分自身の意見を書くことが求められる。Writing １の課題（Appendix １、２、３）は、After reading the passage, what do you have in mind?である。Writing ２（Appendix １、２、３）の課題は、What do you think of Marie Antoinette?である。学生自身が何を考えたのか、自分はどう感じたのか、という自己表現の場としている。

教室では、教室外での語彙学習、読解、writing課題に基づいて、主に産出的な活動を行う。つまり、教室内授業を充実させるために、教室外での語彙学習、読解練習をするのである。学生同士で本文の内容に関する質問をしあったり、他の学生が書いて来た文章を読み、コメントをし合う。また、読んできた内容を写真と結びつけたり、passage全体を音読し、再話（retelling）させたりしている。

2.4 研究課題

本研究の最終的な狙いは、本英語講読の授業はどうあるべきかを実践を通して考えることにある。2015年度実施したものを飯田（2016）で振り返り、その振り返りを基に2016年度の授業を実施した。過去の研究から、いずれも学生の授業評価は高かったことがわかったが、AE3になってからの学生の授業評価、英語力の伸長、学習量と英語力との関係は明らかにされていない、そこで、本研究では以下の３点を研究課題とすることにした。

研究課題

１　「英語講読ＩＡ、ＩＢ」の授業を学生はどのように受け止めたか。
２　本授業によって、学生の英語力であるListening、Reading、Vocabulary、Grammarの力はどのように変化するのか。
３　本授業の学習量と内部テスト（中間テスト・期末テキスト）及び外部テストとはどのような関係があるのか。

上記の３点を明らかにすることで、2017年度のICTを使った産出型「英語講読ＩＡ、ＩＢ」授業を振り返る。

3 研究方法

3.1 参加者

参加者は、2017年度の看護学部１年次の学生である。看

護学部では、１年次の外国語科目として、「英語講読ＩＡ、ＩＢ」、「英語コミュニケーションＩＡ、ＩＢ」、２年次科目として「英語コミュニケーションⅡＡ、ⅡＢ」が必修科目として設置されている。英語科目に関しては、緩やかな習熟度別クラスになっており、新入生オリエンテーション時期に実施されたplacement testで２つのクラスに分けられた。本研究の対象は２つのクラスの中で下位クラスの学生である。

3.2 実施方法及び分析方法

研究課題１は、学生の本授業に対する受け止め方を本学の授業アンケートを使い、共通英語科目の春学期科目である「英語講読ＩＡ」科目の全体平均値と本授業科目を比較しながら検討する。秋学期科目である「英語講読ＩＢ」とほぼ同じであることことから、春学期科目の結果を利用した。授業アンケートは、2017年度に改定されている。そのアンケートの結果は、授業対象者と同科目の平均値を使って比較できるようになっている。本研究では、「授業実施」に関する質問項目Q1からQ7（Q8は比べることができないので除く）、「学習行動」についての質問項目Q9からQ11、到達目標に関する質問項目Q13とQ14を使って評価する。他のクラスと本授業の平均値を提示する。

研究課題２は、１年間の英語力の変化をPre-testとPost-testを使って比べる。英語力を評価する外部試験として「英語placement test　アルファ」（ELPA）を使用する。このテストはListening（300点）、Reading（300点）、Vocabulary（150点）、Grammar（150点）の４分野に別れており、合計点900点満点の試験である。指示を含めて約80分かかる。このテストはPlacement testとして開発された試験であり、多くの大学で入学時のクラス分け試験として実施されている。Pre-testとPost-testは問題が異なるが、同程度のレベルに設定されている。Pre-testは「英語講読ＩＡ、ＩＢ」の２回目の授業時に、Post-testは「英語コミュニケーションＩＡ、ＩＢ」の最後の授業で実施した。Pre-testとPost-testでそれぞれの分野がどのように変化したかを平均値で比較した。その差について*t*検定を使って比較した。次に、Pre-testの結果で上位群（N＝23）と下位群（N＝24）に分け、それぞれの４つの技能が最初と最後でどのように変化したかを明らかにした。

研究課題３に関しては、外部試験として研究課題２で使ったELPA及びTOEIC L&R IPを使用した。後者の試験は、本学の１年次生全員が受験するテストであり、2017年12月12日に実施された。また、本授業で実施している内部テストである中間・期末テストを使って学生の英語の達成度を測定した。本研究の外部試験は熟達度テスト（Proficiency test）、内部試験は達成度テスト（Achievement test）に分類できる。また、オンラインの教材は学生の利用状況を示す履歴が残るので、そのデータを使う。特に、学生の取組状況を顕著に示すものとして学生の課題達成状況を示すmileageと総学習時間を使って評価する。英語学習量を測定する指標としては、総時間ではなく、mileageを使うことにした。mileageの方が、総時間より学生の学習量を評価していると考えられるからである。SPSS25を利用し、ピアソンの相関係数を用いて計算した。

4 結果と考察

本授業に対して学生はどのように受け止めたであろうか。研究課題１を本学の授業アンケート結果を使って分析する。最初に表４の「授業実施」に関する項目を検討する。この授業ではすべての項目で全英語クラスの平均値を上回っていることがわかる。特に高い平均値を出したものが、「自主学習を促す工夫がなされていましたか」であることから、自主学習を促すようにされていた点が現れていると考えられる。この点がオンライン教材の良い点であろう。評価の観点に最低限のmileageを超えることがシラバスに書いてあることから、学生の自主的取り組みを促したと言えるのではないだろうか。

表５は、授業アンケートの「学習行動／到達目標」に関する結果である。特に、学習時間が約２倍（No. 9）になっている。このことから、オンラインの教材を使った授業に真剣に取り組んでいる様子が伺える。また、ここで注目したいのは、10番の質問事項である「あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしましたか」に対して、全英語が2.54に対して、3.09になっている。この原因は、教室内活動の学生同士のpair workやgroup workを取り入れているから、と言えるだろう。

図３はDWCLA10と言われる汎用的スキルの習得状況を示している。数字はパーセントで示されている。それぞれの項目の左側が本クラスで、右側が他のクラス全体の平均である。「思考力」（60％）と「コミュニケーション力」（72％）を選んでいる学生が多いことから、この授業でreadingに関わる思考と教室内でのペアワークやグループワークを重視した授業であることを反映しているものと考えられる。

表４、表５及び図３から学生の本授業に対する受け止め

表４　「英語講読ＩＡ」アンケート結果１

No.	質問項目	「英語講読ＩＡ」平均	本研究クラス
1	授業内容はシラバスに合っていましたか。	3.60	3.77
2	受講生の理解度を確かめながら授業が進められていましたか。	3.38	3.79
3	授業は自分のレベルに合っていましたか。	3.18	3.57
4	教員からの一方的な授業ではなく、教員と受講生または受講生同士の双方向性に工夫がされていましたか。	3.43	3.79
5	提出物に対するフィードバック（採点、添削、マナビーへのコメント、チェック後の返却）は効果的に行われていましたか。	3.24	3.83
6	言葉による説明だけでなく、受講生の理解を促進する工夫がなされていましたか。	3.29	3.72
7	自主学習を促す工夫がなされていましたか。	3.28	3.87

注　Noはアンケートの質問項目番号

表５　「英語講読ＩＡ」アンケート（学習行動・到達目標）結果２

No.	質問項目	「英語講読ＩＡ」平均	本研究クラス
9	この授業の予習、復習、自主学習に１週当たり平均どれくらい時間をかけましたか。	.80*	1.50*
10	あなたはこの授業に関して積極的に意見を述べたり質問をしましたか	2.54	3.09
11	あなたはこの授業の分野又は関連分野の学習をさらに深めたいですか。	3.08	3.41
13	到達目標を達成しやすいように指導がなされていましたか。	3.26	3.67
14	あなたは到達目標を達成できたと思いますか。	2.98	3.27

＊1.0＝１時間（60分）

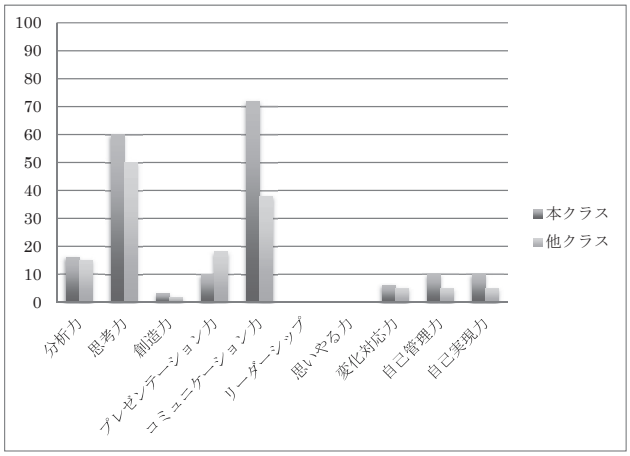

図３「英語講読ＩＡ」アンケート結果３

方は好意的であり、また、教室外学習時間も多いことがわかる。その理由は、教室内でのペアによるspeaking活動によるものと考えられる。前述したように看護学部の学生には全員にタブレットが配布されていることから取り組みやすい環境ができていたことも考えられる。AE3にバージョンアップされる前までは、コンピュータでしかオンラインの教材が使えなかった。自宅にコンピュータを持っていなかった学生にとっては課題学習の場所と時間を確保することに困難を感じた学生が一部いたことは事実である。現在では、スマートフォンやタブレットでも使用できることから、コンピュータを所持しない学生にとって日常の使用が限定されることはなくなった。

全体の割合は少ないが、この授業で「自己管理力」と「自己実現力」を選択した学生もいる。AE3の学習をこの項目と更に結びつけるように学生に働きかけることで、学生のAE3への積極的な取組を促すことに繋がったのはないかと思われる。今後の学生の指導に活かしたい。

次に、研究課題２を検討する。Pre-test及びPost-testとして利用した（表６）。VocabularyとGrammarがそれぞれ150点満点、Reading、Listeningが300点満点で、最高点が900点満点のテストである。Pre-test、Post-testを比べると、非常に残念な結果ではあるが、Listeningだけ統計的に有意に伸び（$p<.01$）、その他の項目は平均値が下がっている。その差に関しては、統計的有意差はなかった。

表６　Pre-testとPost-test比較

	Pre-test（April, 2017）	Post-test（January, 2018）	*p*
Vocabulary score （SD）	98.4 （13.8）	94.7 （12.4）	.07
Grammar score （SD）	100.8 （17.3）	95.4 （16.2）	.04
Listening score （SD）	160.1 （28.3）	170.0 （32.3）	.01
Reading score （SD）	177.0 （47.3）	170.0 （40.6）	.18
Total score （SD）	536.0 （81.2）	530.0 （78.6）	.45

表７　総得点平均値

	Pre-test	Post-test
Low（N＝23） （SD）	472.8 （40.0）	483.3 （61.3）
High（N＝24） （SD）	596.6 （63.9）	575.0 （66.7）

表８　２群間の語彙平均値

	Pre-test	Post-test
Low（N＝23） （SD）	91.0 （12.0）	90.8 （12.7）
High（N＝24） （SD）	104.8 （11.9）	98.5 （11.2）

表９　２群間の文法平均値

	Pre-test	Post-test
Low（N＝23） （SD）	93.8 （14.1）	89.7 （16.0）
High（N＝24） （SD）	107.4 （17.8）	101.0 （14.7）

表10　２群間のListening平均値

	Pre-test	Post-test
Low（N＝23） （SD）	142.5 （19.3）	152.7 （26.4）
High（N＝24） （SD）	176.9 （25.5）	186.5 （28.8）

表11　２群間のReading平均値

	Pre-test	Post-test
Low（N＝23）	145.4 23.9	150.0 35.6
High（N＝24）	207.5 44.3	189.0 36.1

Listeningはこの授業ではなく「コミュニケーション英語」により深く関わっている。

そこで、このクラスのPre-testとPost-testを下位クラス（Lower group）と上位（Upper group）に分けて比較することにした。その結果は表７、８、９、10、11になる。Listening力は二つのgroupで伸びているのに対して、Reading力に関しては、Lower groupで伸びているが、Upper groupで下がっていることがわかる。Vocabularyに関してはLower groupが変わらないのに対して、Upper groupは下がっている。Grammarに関しては両方の群で下がっている。

表12は2017年12月に実施されたTOEIC L&R IPの結果である。表13は１年間のmileageと総合学習時間を示している。総合学習時間とは分単位で、AE3を利用した全ての学習時間を示している。平均値が1311分である。mileageに関しては学生数人以外、春、秋学期合わせて6000マイルを超えていることがわかる。

研究課題３に関して、外部試験、内部試験、mileageとの相関関係の結果から考える。表14はそれぞれの相関関係を示している。Pre-testとPost-testはmileageと弱い関係（r＝.35、p＜.05；r＝.27、n.s.）があることがわかる。中間・期末テストは、AE3の中から一部出題されていることから、弱い関係から中程度の相関関係（r＝.30、p＜.05；r＝.44、p＜.01）を示している。同様にTOEIC L&R IP、mileageとの関係を検討する。表15からTOEIC-L（TOEIC Listening）とTOEIC-R（TOEIC Reading）はmileageと弱い関係（r＝.34　p＜.05；r＝.25、n.s.）があることがわかる。

以上の結果から本研究の最終的な狙いである2017年度の本英語講読の授業について考察し、今後の展開について論じる。本授業はICTを使い、教室外ではreadingを行い、教室内では教室外のreadingに基づいて展開される反転授

表12 TOEIC L&R IPクラス平均値

Test	Min	Max	Mean	SD
TOEIC-L	115	395	236.6	64.8
TOEIC-R	90	280	173.3	46.2

表13 1年間のmileage数と総合学習時間

項目	Min	Max	Mean	SD
総学習mileage	1681	11136	6841.5	1716.6
総学習時間	450	2260	1311.5	473.5

注　総学習時間は分を示す。

表14 各種テストとmileageの相関関係

	Pre-test (ELPA1)	Post-test (ELPA2)	Mid-term	Final	Mileage
Pre-test (ELPA1)		.77**	.57**	.50**	.35*
Pre-test (ELPA2)			.37*	.49**	.27
Mid-term				.51**	.30*
Final					.44**
Mileage					

*p<.05、**p<.01

表15 TOEIC L&Rとmileageの相関関係

	TOEIC-L	TOEIC-R	Mid-term	Final	Mileage
TOEIC-L		.68**	.48**	.45**	.34*
TOEIC-R			.53**	.57**	.25
Mid-term				.51**	.30*
Final					.44**
Mileage					

注　Mid-termは中間テスト、Finalは学期末テスト

*p<.05、**p<.01

業であった。学生にはこの授業は全体的に好評であり、授業アンケートからも学生の受け止めは良いと判断できる。授業１コマに対する準備の時間も平均90分であり、他のクラスよりも多くの時間をかけていることがわかった。このことから、引き続きより多くの学生が満足する授業となるように努力するとともに、質的にレベルの高い授業を展開できるように努力したい。質的に高いレベルの授業とは、学習者が教室外で内容を理解しながら課題として出されるメッセージを考えながら英文を書き、教室内で内容のある事柄を積極的にコミュニケーションする活動である。そのためには、学生はreadingの本文の内容を読んでそのメッセージを掴み、学生自身が教材を読んで本当に表現したい文章であるかどうか、という点が重要となる。つまり、readingの内容が本当に学生の興味を引き出すものであるかが鍵である。English 2020でも現在そのような教材を理想としながら、開発を進めている段階である。

次に、学生の学習（mileage）は中間・期末テストとは弱い関係から中程度の関係があることがわかったが、外部試験とは内部試験より全体的に弱い関係があることがわかった。このことは何を意味しているのであろうか。この結果を学習量と実力テストの関係について、語彙、文法、reading指導の在り方について、そして、学習の質という３つの観点から考えてみたい。

AE3のようなオンラインの教材の特徴の一つは、学習履歴が正確に得られる点にある。本研究では、mileageを使って学生の学習量を測ってきた。もちろんmileageが学習者のデータを絶対的に正確に示しているとは言えないが、一つの指標とすることは可能である。学生は確かに課題として出されるAE3のSelected Trainingをしっかりと学習してきている。そのことは、中間・期末テストとの相関からも言える。しかしながら、その学習量は残念ながら、外部試験の語彙、文法、readingには達することができなかったことを示唆しているのではないだろうか。ELPAの試験は、元々はPlacement試験として開発されたものである。Achievement test（到達試験）としての中間・期末試験は日々の努力が反映されるが、Placement試験のようなProficiency test（熟達度試験）に対しては、ある程度以上の学習量が要求される。参加者は確かに目標の春秋学期両方で6000マイルを超えることができたが、Proficiency testを向上させる学習までには至らなかったということが言えるのではないだろうか。看護学部の学生は、１年次から専門的な分野の学修が要求され、実習も組み込まれていることから全体的に専門科目での学習量が多い学科である。そのため、単に学生に対してAE3の課題学習量を多くするだけでなく、英語の語彙・文法の特徴を効果的に指導すると同時に、学習の方法についても具体的に指導する必要がある。英語学習の質的なレベルを考慮しながら授業を計画する必要がある。

Pre-testとPost-testの語彙、文法、reading力の結果から、Lower groupのreadingのみ向上したことについて考えたい。今回AE3で取り上げたReadingの教材は、TOEFLのBasicとIntermediate Levelから選んでいる。看護学部の学生のレベルを考えた上で、春学期はBasic Coursesの中から、秋学期はIntermediate Coursesから選び、Advanced Coursesからは選んでいない。Lower groupの学生は、適度な難易度で問題演習をすることで読解力を身につけたが、Upper groupの学生にはあまり適切ではなかったことが考えられる。また、基本的にpassageの読み方を教室で明示的に示さなかったことが理由として考えられる。学生はreadingを基本的に教室外で行い、教室ではspeakingを中心に行うため、新しい英文を読む時には、大学入学前までに学んで来た各自の読み方を踏襲することになる。下位のグループは、AE3のpassageを読み、問題に答えることで読解力を伸ばしたが、上位のグループは今までの読み方を踏襲してきたのではないだろうか。そうであるとしたら、教室内で具体的な速読の方法、paragraphの読み方、passage全体を読む方法、各質問を念頭に置いて読む方法、未知語の推測、推測問題の方法を教室で教えると同時に、全体を批判的に読む方法を身につけることが大切ではないだろうか。批判的に読むためには、正確に読むことが前提として要求されるからである。単に正解だけを求める読み方でなく、学習者の読み方を揺さぶるような批判的な教室内の発問が必要ではないだろうか。今後、批判的読解を具体的にどのように展開するのかを考えたい。学生の語彙学習に関しては、AE3で出題される以外の語彙学習が要求されていることを示唆しているように思われる。文法に関しては、AE3になって文法セクションが充実され、問題数が多くなった関係で、AE3の毎回の課題にはほとんど入れず、TOEICの問題集で少し扱ったことが原因であることが考えられる。語彙及び文法に関しては、限られた時間の中で、今までの学生の学習を考慮しながら、より効果的な指導が必要となる。例えば、学生の書いた英文の中から誤り易い文法項目や語彙を取り出しながら指導することも必要であろう。また、語彙や文法をどのように具体的に学んでいくのかを授業中に明示的に指導することが必要であろう。

最後に、学習の質的観点からこの授業を反省してみる。この授業の特徴の一つは、AE3というオンランの教材を使用することではあるが、そればかりでなく、読んだことを自分の視点から考え、英語で自分の意見を書くことに特徴がある。また、それを教室外で行い、教室内では４人のグループの間またはペアで読み合い、コメントを書くことが重要な点である。毎週、２つのpassageに対して、最初はそれぞれ50語程度から始まり、秋学期からはそれぞれ100 wordsの英文を書くことは学生にとっては決して易しい課題ではない。しかし、ほとんどの学生はきちんと課題をこなしてくるだけでなく、英語で書かれたものの中には相当な力作も多い。また、課題をやってきた学生に対して、学生がコメントし、教師も一言コメントすることは、学生の学習意欲を喚起することに役立っていると考えられる。学生同士のコメントしているやり取りをみると、生き生きと取り組んでいる様子が伺える。英文作成に関しては、徐々にparagraph writingの基礎を踏まえながら、指導してい

る。テキストを使って本格的にparagraph writingを学ぶのではなく、学生が書いてきたものを取り上げながら、どのように書けば相手によく伝わるかを考えさせながら指導している。学生の書いてきた文章に対して、教師側がどのようにfeedbackを与えるかについては、今後の課題としたい。現在では、学生が書いたものの中から興味深いものを取り上げて、読み合う活動を実施している。今後系統的なwritingの指導が必要となるであろう。系統的なまとまった内容を書く指導、一人ひとりの学生にどのようなフィードバックを与えるかが、重要となる。Appendix 3は学生が書いた実際の英文である。このように読んだことを自分の視点でまとめることが大学生として知的に見合った活動であり、今後専門科目においても重要な活動になると思われる。もちろん、専門科目において英語で書くことはあまりないかもしれないが、文章を読んで自分の考えを書くということは母語である日本語にも影響する。

最後に、共通英語と学部科目との関連について考えたい。この授業で学んだ題材には、看護に関係する題材が含まれている。例えば、春学期の９回目の授業で扱った「白衣の天使ナイチンゲール」は看護学部の専門科目でも扱っている題材である。学生は英語で読むという別の観点からこの題材に興味を抱いて熱心に取り組む。また、AE3を通して当時のイギリスでは看護師の立場が非常に低いことを理解することで、より深く学んでいるようである。筆者が題材を選ぶ視点は、「女性」「リベラルアーツ」「看護に関連する事柄」の３点である。専門科目だけ扱うのではなく、本学の教育理念であるリベラルアーツを中心として、女性と社会、大学生としての教養という立場から題材を選択している。毎回学生が書いてきたものを読むことで学生の題材に対する取り組みの姿勢がよくわかる。この授業で学んだ題材は、看護学部の専門科目である「国際保健」にもつながる。また、この研究プロジェクトでは、AE3に出されている題材だけでなく、本学独自の教材を開発することが目的になっていることから、今後更に研究を進め、AE3の教材だけでなく、独自に開発した題材を使って学生が学べるようにしたい。

5 終わりに

ICTを使った反転・産出型「英語講読ＩＡ、ＩＢ」は授業としては全体として学生の受け止め方が良いが、学生の学習は必ずしもELPAやTOEIC L&R IPのような外部試験の評価には反映されているとは言えない。今後、批判的な読み方を含めた明確な英文の読み方、語彙・文法指導を工夫することで外部試験に反映できるようにするように心がけたい。また、外部試験には反映されない授業の質的向上にも貢献したい。「英語講読ＩＡ、ＩＢ」の授業内容と専門分野との関連を深めることができるように更に工夫が必要であろう。2019年度から「英語講読」は「Comprehensive English」に変わり、現在のreadingを中心とした技能を伸ばすだけでなく、listening、speaking、writingの技能を伸ばすようにすることが決定している。新しい名称の科目の指導に本研究が少しでも参考になればと願いたい。2018年現在、春学期科目が終了し、秋学期科目開始まで数週間の期間がある。2018年度はこの授業の反省を活かして取り組みを進めている。新たなアクション・リサーチのサイクルを展開したい。

本研究は「英語講読ＩＡ、ＩＢ」を対象にしている。しかしながら、学生は同時に「英語コミュニケーションＩＡ、ＩＢ」の授業を受講しているので、厳密な意味で本研究の結果が全て「英語講読ＩＡ、ＩＢ」の影響を反映しているとは言えない。しかし、本研究で調査した英語能力はListeningを除いて深い関係があると言える。

本研究の目的の一つが共通英語教育の改革である。しかしながら、この研究だけで改革ができるものではない。本論文が共通英語教育改革の一歩となるように、引き続き努力したい。今後、共通英語教育担当者及び英語教育専門の教員ばかりでなく、英語教育を専門としない本学の専任教員、嘱託講師を含めた総合的な研究が必要である。

謝辞

本研究は本学の2017-2019年度研究プロジェクト「本学の教育理念及びVision 150を活かした共通英語教育開発のための基礎研究」から助成金を得ている。

参考文献

阿部公彦（2018）.『史上最悪の英語政策　うそだらけの「４技能」看板』ひつじ書房

飯田　毅（1997）.「21世紀の英語教育―オーラル・アプローチとアクション・リサーチ」1996年度ELEC賞受賞論文. *ELLC Bulletin*. No. 104, 54-61.

飯田　毅（2016）.「教室外の課題と授業を結びつける英語講読の授業」ICT利用による教育改善研究発表での口頭発表. 公益社団法人私立大学情報教育協会.

飯田　毅、成橋和正、橋本秀実、今井由美子、佐伯林規江、高橋　玲、若本夏美、松中みどり（2018）.「本学の教育理念及びVision150を活かした共通英語教育開発のための基礎研究―１年目のまとめと考察」同志社女子大学総合文化研究所紀要35巻、45-81.

飯田　毅、佐伯林規江、今井由美子、橋本秀実、成橋和正（2018）. ICTを使った産出型reading授業の成果. 大学英語教育学会第57回国際大会での口頭発表.

ジャック・C・リチャーズ、チャールズ・ロックハート（2000）.「英語教育のアクション・リサーチ」（新里眞男訳）研究社出版

南風原朝和、宮本久也、羽藤由美、阿部公彦、荒井克弘（2018）.「検証　迷走する英語入試スピーキング導入と民間委託」岩波書店

佐野正之（2000）.「アクション・リサーチのすすめ」大修館書店

山内裕平、大浦弘樹（2014）.「序文　反転授業とは」ジョナサン・バーグマン、アーロン・サムズ「反転授業」上原裕美子訳，オデッセイコミュニケーションズ.

Cohen, L. & Manion, L.（1980）. *Research method in education*. London: Croom Helm.

Fukuda, M.（1996）. “Develping teachers’ awareness and autonomy through action research. *JABAET Journal 1*, 21-32.

Nunan, D.（1989）. *Understanding language classrooms. A guide for teacher-initiated action*. NJ: Prentice Hall.

Appendix 1
授業計画

# Date	Content	Reading Materials	
1 4 /11	Introduction：授業の目的、目標、学習方法を知る、自分を知る。mini-test		
2 4 /18	Placement test		
3 4 /25	Review, Discussion Grammarの力を身につける。	女流推理小説家アガサ＝クリスティ	ハリー＝ポッターの作者ローリング
5 5 / 9	Review, Discussion Reading力を身につける。	ローザ＝パークスと公民権運動	黒人女流作家トニ＝モリソン
6 5 /16	Review, Discussion Writing Ⅰ（Self-introduction）	女性建築家ジュリア＝モーガン	暴力色の濃いビデオゲームの子供達への影響
7 5 /23	Review, Discussion Writing Ⅱ（Self-introduction）	新聞界の女傑キャサリン＝グラハム１	宗教とは
8 5 /30	Review, Discussion （Mid-term Examination）		
9 6 / 6	Review, Discussion Vocabulary力を高める。	白衣の天使ナイチンゲール	ネイズ教授の「昼寝」の勧め
10 6 /13	Review, Discussion Listening力を高める。	ストレスの解消法	米国清純派女優オードリー＝ヘップバーン
11 6 /20	Review, Discussion TOEIC reading section	米国のお馬鹿な泥棒達の話	アメリカ赤十字社の設立
12 6 /27	Review, Discussion TOEIC reading section	「仕事」と「学校」の両方から学ぶ	アルコール依存症者自主治療協会
13 7 / 4	Review, Discussion TOEIC reading section	予知について	「エコロケーション」を使うコウモリ
14 7 /11	Review, Discussion TOEIC reading section	二酸化炭素の増加による地球温暖化	米国の訴訟面白話
15 7 /18	Consolidation（Final Examination）	まとめ	

# Date	Content	

1 9 /26	Introduction：目的、目標、学習方法を知るTOEIC mini-test（Grammar）	
2 10/ 3	Discussion, TOEIC mini-test（Grammar）, Discussion in English	親の足跡を辿る子供について マラリア感染に対する注意
3 10/10	Discussion, TOEIC mini-test（Grammar）, Discussion in English	男性になりすましたドロシー＝ティプトン アメリカの大学生活およびシステム
4 10/17	Discussion, TOEIC mini-test（Reading）	カルチャーショックの段階 メアリーの心霊体験
5 10/24	Discussion, TOEIC mini-test（Reading）	先史以来現代までの医学史概観 フランス王妃マリー＝アントワネット
6 10/31	Discussion, TOEIC mini-test（Reading）	未確認飛行物体（UFO）の目撃 植物の特徴
7 11/ 7	Discussion（Mid-term Examination）	
8 11/14	Writing, TOEIC mini-test（Listening） Vocabulary力を高める。	一般人の歴史（エジプトの女性） 味覚について
9 11/21	Writing, TOEIC mini-test（Listening） Listening力を高める。	TOEIC Grammar
10 11/28	Reading, TOEIC mini-test（Reading）	TOEIC Reading
11 12/ 5	Reading, Discussion, Writing	靴底到着遅滞に対するクレーム ビジネスマンへの警告 ― 不用意に手を出すな
12 12/12	Reading, Discussion, Writing	TOEIC Speaking & Writing
TOEIC受験（12/14、４・５講時）必ず受験、得点は秋学期成績にも反映される。		
13 12/19	Reading, Discussion, Writing	外国暮らしの効用 エイズについて
14 １/14	Reading, Discussion, Writing	健康状態をチェックするスマート技術 皮膚ガンについて
15 １/23	Consolidation（Final Examination）	まとめ

Appendix 2 毎回使用するWorksheet 例（表面）
英語講読I b Worksheet 1 （October, 16th, 2017）, TASK 16

No.　　Class　　Name

1. Tips for reading and grammar

1 TOEIC SW（Speaking & Writing）
（1）スピーキングテストのQuestions4-6は身近な話題についてのインタビューに答えるといった形式の問題です。（2）同じトピックに関する3つの短い設問に即座に答えてください。（3）解答時間は1、2問目は15秒、3問目は30秒です。（4）イントロダクションと設問が画面に表示され、音声も流れます。（5）音声の後にビープ音が鳴り、タイマーのカウントダウンが始まりますので、制限時間内にあなたの意見を返答してみてください。
評価：（1）適切な言葉で、すばやく正確に答えられるかが問われます。質問に対して多くを答える必要はなく、適切に答えることがポイントです。（2）疑問詞（Who、Where、When、What、Whyなど）に注意して、適切に応答する。

2. Super English Reading

1. TOEIC Reading（p. 57）
（1）Vocabulary

（2）Part 5

（3）Part 6

（4）Part 7
Vocabulary

2. You have to finish Task 16 by 10:00 on October 23rd. Take notes about what you have learned through practicing Task 16.
（1）Read a text aloud of first paragraph of text.
Check which part you don't understand. Write about it. You don't have to write if you understand it.

（2）Vocabulary（Enrich your vocabulary）. Write a word you are not familiar, adding its meaning.

毎回使用するWorksheet 例（裏面）

（３）What do you have in mind after reading this passage?
（The number of words you have written:）

4. Finish Task 16 by 10:00 on October 23rd. Take notes about what you have learned through practicing Task 16.
（１）Check which part you don't understand. Write about it. You don't have to write if you understand it.

（２）Vocabulary（Enrich your vocabulary）. Write words you are not familiar, adding the meaning.

3. What do you think of Marie Antoinette? Write about her in about 100 words.
（The number of words you have written:　　）

Evaluation	Your reflections on Task 16 today's class.

Hand in this worksheet on October 23rd.

Appendix 3 ある学習者の work sheet 記入例（裏面）

2017 英語講読 Ib

(3) What do you have in mind after reading this passage?

(The number of words you have written: 60)

I was surprised that one of great civilizations, Mesopotamia, had a comprehensive medical service to care for the population. There was the School of Medicine in Italy. Many people studied about medicine and helped sick people. Thanks for a lot of people, medical science made a dramatic advance. I want to study more hard and help a lot of people.

私も昔、たくさんの人が医療の発見をしたことで劇的な変化をもたらせたのだと思います。坂口

4. Finish Task 16 by 10:00 on October 23rd. Take notes about what you have learned through practicing Task 16.

(1) Check which part you don't understand. Write about it. You don't have to write if you understand it.

The marriage was arranged to strengthen Austria's ties with the powerful French court

(2) Vocabulary (Enrich your vocabulary). Write a word you are not familiar, adding its meaning.

enjoy ～を享受する、～を持っている / class (社会の)階級 / heart 中心、核心 / overthrow 転覆させる、撤廃する / dignity 尊厳、威厳 / (be) aware of ～ ～に気付いている / supposedly おそらく、推定では / disguise 変装させる、隠す / carriage 車両、四輪馬車 / govern 統治する、管理する、支配する / people 民族、国民 / tie つながり、関係、絆 / royal 王の、王室の / execute 死刑にする、処刑する / rebellion 謀反、反乱 / unlucky 不幸な、不運な / in a ～way ～の方法(やり方)で / harm 害、損害 / secretly 秘密に、内緒に / strengthen 強める、強化する、強固にする / cut off ～ ～の供給を止める、～と切り離す、切断する / escape from ～ ～から逃げる / It is said (that) ～ ～だそうだ、～という話だ / questionable (真実であることが)疑わしい / bride 花嫁、新婦 / queen 女王、王妃 / unpopular 人気がない / outgoing 社交的な、外向的な、発信用の、外に出ていく / harvest 収穫(物)、収穫高 / mob 暴徒、群集 / overly 過度に、非常に / holy 神聖な / in part 一部には、いくぶん(かは) / British イギリス人 / carefree 心配のない、のんきな / strip of ～ ～からをはぎとる / psychologically 心理的に / revolutionary 画期的な、革命の / in exchange for ～ ～の見返りに、～と引き換えに / capture 捕獲する、捕える、記録する / frugal 質素な

3. What do you think of Marie Antoinette? Write about her in about 100 words.

(The number of words you have written: 126)

I knew that Marie Antoinette is mainly remembered as the unlucky Queen of France who lost her head in the French revolution. I think that she is pitiful. I have two reasons. First, she married the French Dauphin when she was still fifteen. The marriage wasn't because the prince and she were in love. They were very different from one another. I think she was unhappy in her marriage. Second, to escape from her marriage psychologically, she surrounded herself with questionable friends and spent money freely. She became a symbol for the overly rich lifestyle enjoyed by the royal class. I think that such a thing didn't happen if she and her husband were tightly bound. I also think her life was one struggle after another.

Evaluation	Your reflections on Task 16 today's class.
A	内容が多かったですが、自分の意見をきちんと述べたり、の意見も知れて、積極的に授業に参加できました。

Hand in this worksheet on October 23rd.

15歳で結婚だったり、いろいろな面で本当に大変な人生を送った人だと思いました。　三浦